

建築表現と表象を通して歴史を読む

もうひとつのヨーロッパ建築の歴史[2日間集中]

岡北一孝(日本学術振興会特別研究員PD(大阪大学文学研究科)、
大阪大学非常勤講師、京都造形芸術大学非常勤講師)



ベルナルド・ブオンタレンティ「サンタ・マリア・デル・フィオーレ
大聖堂のファサード計画案模型」(1587年、フィレンツェ大聖堂
附属美術館所蔵)

- 日程：12/16(土)、12/17(日)
- 時間：1日目 11:00～17:00
2日目 9:30～16:10
- 会場：大阪サテライトキャンパス
- 受講料：15,000円
- 定員：40名
- レベル：全対象
- 形態：講義
- 単位連携：
有 団 [学芸専門講義 1-10] (1単位)

建築を表現したもの・表象したものをから建築文化を考えることができる力を身につける

ヨーロッパ建築史は建築そのものの歴史だけでは語ることはできません。むしろ建築を表現したメディアの方が過去の建築の姿をいきいきと描きだす場合があります。代表的なのは建築模型・図面・素描ですが、それだけにとどまりません。他にも例えば絵画の中に描かれた建築は、その虚構の建築が現実の建築とどのような影響関係にあったのかを教えてください。またさまざまなテキストの中で建築について語られた言葉は、人々が建築に託していた意味や機能を教えてください。「建築にはなっていない建築」を通して、ヨーロッパの豊かな建築文化について考えていきましょう。

12/16(土)

模型・図面・素描の形式や制作手法がどのように変遷したのか、建築構想やデザインとかたちの伝達にどのように用いられてきたのか、その歴史を古代から近代までの長い時間の中で概観していきます。

- 11:00-12:20 建築模型・図面・素描の役割と意味について
- 13:20-14:40 中世のスケッチブックと大聖堂の図面
- 14:50-16:10 建築家による図面表現の進化が空間に与えた影響—ルネサンスの建築図面と素描
- 16:20-17:00 実現しなかった建築—西洋近代の建築図面と素描

12/17(日)

絵画と文学、特に15世紀の作品の中で表現されている建築に着目します。15世紀は建築を表現する代表的なメディアが言葉から二次元での表現(図面・素描)へと移り変わった時代です。それは画家が建築家を兼ね活躍する事例が多いこととも関係します。その劇的な変化の時代の建築を、画家による建築表現を通じて考えていきます。一方で、同時代において言葉で建築はどのように語られているのかをも取り上げます。

- 09:30-10:50 なぜ画家が建築家になったのか？ルネサンスにおける建築家のあり方
- 11:00-12:20 ピエーロ・デッラ・フランチェスカの絵画の中の建築
- 13:20-14:40 アンドレア・マンテーニャの絵画の中の建築
- 14:50-16:10 人文主義者たちがみた建築—15世紀のテキストの中の建築

○持参物：筆記用具

○参考文献：『JA No.91 模型という建築』(新建築社 / 2,381円[本体]) 『くらべてわかる世界の美しい美術と建築』(五十嵐太郎編著 / エクスナレッジ / 2,800円[本体]) 『建築史とは何か』(アンドリュ・リーチ、横手義洋訳 / 中央公論美術出版 / 1,900円[本体]) ※購入および講座への持参は必須ではありません。